

Encourage & Company

皆さんこんにちは。

エンカレッジアンドカンパニーの堀です。

私のコラムでは、中国の故事成語について、我々の日常に何か応用できないか、という観点でシリーズとして書き綴っています。

中学1年生の時、家の近くには心の優しい番長の家があり、番長の部屋で香港映画「靈幻道士」を観ました。黄色いおふだをキョンシーの額にピタッと貼るとおとなしくなるあの映画ですね。中国人にキョンシーって言うても絶対通じません、殭屍（ジャンシー）と発音したら通じるかもしれません。靈幻道士に「道（タオ）」の文字が入っているとおり、キョンシーは道教思想に登場するいわゆるゾンビなのです。湖南省に出稼ぎに来て死亡した人の遺体を、道士が故郷へ搬送する時に呪術で歩かせたそうです。

中国には大きく分けると、仏教・儒教・道教の3つの宗教があります。仏教と言っても日本人はほぼ無宗教で特に何もしないところは、中国人もよく似ています。私の認識では仏教=宗教 儒教=道徳 道教=ライフスタイルとなっています。今回のテーマにした道教は私のイメージでは宗教ではなく、特段の目標を持たず、スローライフ（Slow Life）を実行して宇宙や自然と調和するライフスタイルと認識しています。道教の目指す本質は「無為自然（人の手を加えないで、何もせずあるがままにまかせること）」です。

道教は三国志の時代にも流行し、その世界観に触れることができます。黄巾の乱の張角の太平道、漢中の張魯の五斗米道はいずれも道教です。そして私は曹操のお気に入りの占師の管輅のエピソードが好きです。

占いの名人管輅は職業病で人を見るとすぐ人相を見てしまいます。ある少年とすれ違った時に、少年惜しいかなと口走ってしまいます。3日のうちに死ぬのだから。少年は父親にその旨を告げ、父親は何とかして生かしてあげられないだろうかと言葉に泣きすがります。曹操はこのエピソード序盤でピンと来ます。過去のことを言い当てたり、箱に隠してあるものを当てたところで自分には何の益もない。禍を未然に防ぐことにならどんなことでもする、是非管輅に会いたいと。

人命は天命、人事及びがたしと言って管輅はその父親の懇願を断りますが、ついに断りきれず3日のうちに死なせない方法を教えてしまいます。1樽の酒と鹿肉を持って南山に行きなさい。そして南山の大きな樹の下で碁盤を囲んで碁を打っている2人がいる。1人は北へ向かって座っていて容姿が良く赤い服を着ている。もう1人は南へ向かって座っ

Encourage & Company

ていて容姿が醜く白い服を着ている。その 2 人の仙人に酒をささげて願いを乞えば良いと。言われた通りに父親と少年は南山へ行き、碁を熱心に打っている 2 仙のそばに静かに座り酒をすすめました。打ち終わったところに父親が願いの趣旨を告げると 2 仙は人間がいることにびっくりして、ははぁこれは管輅の仕業だな、困ったものだと言います。しかし、既に人間の私的な施しを受けてしまったからには仕方がないと言い、2 仙は各々簿を取りだしてその少年の欄を見ました。本来は本年度で人生を終えることになっているが、十九という字の上にもう 1 つ九を加えるか？とお互い顔を見合わせうなずき笑って九の字を書き加えてたちまち鶴に乗って飛び去ってしまいました。後日父親が管輅に謝辞を伝えるついでにあの 2 仙は誰だかを聞きました。管輅が言うには、赤い服を着ているのが南斗で白い服を着ているのが北斗だと教えてくれました。

中国では道教思想によって北斗七星を仙人として神格化しており「死」を司っています。同様に南斗六星は「生」を司っています。

2 人の仙人が持っている簿に人間の生死がすべて記載してあって管理している…道教はこのように、何かにりきむことなくほのぼのしているのです。

ちなみにキョンシー以外にも日本で道教思想が断片的に根付いています。風水や太極拳や中華街の関帝廟はみな道教思想によるものです。

私は、管輅のエピソードに感動し、自分のライフスタイルに合う道教思想の何かを 1 つ実行してみようと思っています。

堀 洋三

Encourage & Company

-バックナンバー中国故事成語をビジネスに応用する-

第1回目は「牛耳る」

第2回目は「鳴かず飛ばず」

第3回目は「司馬懿仲達」

第4回目は「我れ鳥獣にあらず」

第5回目は「国士無双」「狡兔死して走狗煮らる」

第6回目は「鼓腹撃壤」

第7回目は「外戚」

第8回目は「論語①」

第9回目は「東郭先生と狼」

第10回目は「孫子の兵法」

第11回目は「漢中（場所）」

第12回目は「不如意」

第13回目は「孟嘗君」

第14回目は「天道は是か非か」